



## 「偉大な神、偉大な信仰」

～偉大な奇跡の元となるもの～

「『では、バプテスマ（洗礼）を受けた時、どんな信仰告白をしたのですか？』『バプテスマのヨハネの教えた…。』これを聞いたパウロはヨハネのバプテスマは、罪を離れて神に立ち返る決意を表すものだから、それを受けた者が、ヨハネの証言どおり、あとから来られたイエスを信じるのは当然のことだと説明しました。」

使徒行伝19章3・4節〔リビングバイブル〕

神様はパウロを通して、偉大な力ある御業をなされました。しかし、パウロはいきなりそのような力ある働きを始めたものではありませんでした。それには理由がありました。

彼はまず、エペソに来て、クリスチャンたちに聖霊を受けたかどうかを尋ねました。どうして、そのように質問したのでしょうか？前章で登場したアポロのことがあったからでしょうか？彼はアクラとプリスキラと出会うまでは、ヨハネのバプテスマしか知りませんでしたので、その影響があったことを知っていたからでしょうか。それとも、パウロはエペソのクリスチャンたちに出会った時に何かが欠けているということに気がついたのではないかと思うのです。

①「主イエスの御名によるバプテスマ」…私たちはまず、イエス様を主と仰がなければなりません。私たちはいつでも自分が中心にいてしまいます。それも無意識の内に…。だからこそ、意識的に、イエス様をいつでも自分の中心に置くことが必要です。また、「バプテスマ」ということは浸されるということ。内側の中心にイエス様にいてくださると同時に、私のすべてをイエス様によって満たされる必要があります。

②「聖霊を受ける」…私たち自身がイエス様に満たされたなら、神様は私たちに神の霊、聖霊様をくださいます。そして、力強くその働きをなす者へと変えられていきます。

③「主の御言を聞き続ける」…そして、パウロの力ある働きの土台となったものは、御言葉を語り続けることでした。彼も教養に満ちた人物だったと思いますが、そのような学問や教育ではなく、キリスト御自身を語りました。そこに、偉大な奇跡が起こったのです。

そして、パウロの働きに対して、悪霊たちまでもが恐れを持っていました。しかし、いい加減な信仰で従おうとした人々は逆にひどい目に遭わされました。私たちがキリストに従う時には100%従わなければなりません。いい加減な気持ちではひどい目にあってしまうことがあるのです。私たちが恐れるべきお方はただお一人、主ご自身です。

昨日から世の光の集会がこの東信地区で開始されています。祈り、チャラシもお配りして準備してまいりました。恐るべき偉大な神様のみわざが豊かになされることを信じて祈りましょう！そして、主に期待致しましょう！家族の救い、私たちの信仰が引き上げられますように。主がこの地域の教会の働きを祝されますようにもお祈りくださいますように！